

# 平成30年度社会福祉法人天寿会事業報告書

## 平成30年度社会福祉法人天寿会事業執行経過報告

地域のニーズに応えることができる社会福祉法人として、また組織の活性化と効率化を図りながら、安心できる経営と法人理念の実現に向けて以下7点の重点項目を骨子として取り組んだ。

### 〔1〕重点項目の進捗状況及び評価

#### ① 法人のガバナンスの強化

社会福祉法人としての運営において、公益性や公平性、そして透明性が保たれるために「天寿会内部管理体制の基本方針」ならびに「社会福祉法人天寿会法令遵守に関する指針」、「コンプライアンス管理規定」を制定するとともに各種規程について見直しを行った。

また、各事業の方針・予算の策定、ホームページや広報紙による情報の開示を推進した。

#### ② 職員の確保と人材の育成

看護・介護職を中心に専門職の確保が厳しい状況は変わらなかった。求職者はハローワークを通さずに人材紹介会社を使うことが多く、採用の際には手数料がかかるケースも増えた。求人する側もそのようなインターネットのサイトに登録するなど対応が必要となっている。それでも必要数を確保することはできずに新年度を迎えた。

人材育成では、介護福祉士実務者研修通信科に法人内職員8名が受講し、過去受講者を含め13名が介護福祉士試験を受験、9名が合格した。

#### ③ 地域貢献

町からの委託事業として「脳の健康教室（竹浦教室）」「介護予防サロン すこやかサロン」「認知症カフェ ときいろ」を実施した。独自事業として「感染防止教室」虎杖小学校で12月に開催、その他、白老身障協会ヘリフト付きマイクロバスの無料貸与を行った。

8月には竹浦・虎杖浜地区の連合町内会長、民生児童委員、町地域包括支援センターのメンバーと地域生活の課題解決に向けた話し合いを行った。

#### ④ 財務管理の強化

報酬改正による大きな影響もなく、反面新たな加算取得等の収入増もなかった。全体としては概ね予定通りの予算執行状況であった。また、予定していた送迎用リフト付き車両・回診用X線撮影装置・電動ベッド、特養部改修工事等の入札を行い予定価格を下回る額で決定した。

#### ⑤ 施設整備・増改築基本構想の推進

特養部については、プライバシー保護事業及び大規模修繕の補助金申請が認められたため、ベッドごととに衝立でプライバシーに配慮する改修工事と大規模修繕の一部工事を行った。大規模修繕については平成30年度及び令和元年度の2年にわたって実施する。

#### ⑥ 利用者の安定確保

障がい者入居系事業所（更生・療護・しおさい）では年間を通して新たな利用申込は非常に少ない状況であったものの、利用者の異動も少なく、高い利用率を維持した。一方、高齢者入居系事業所（特養・老健・GH）では、待機者が少なく利用率も目標に届かない状況であった。どちらも新たな取り組みと言えるような確保策は講じられなかった。

#### ⑦ 利用者へ安心・安全なサービスの提供（防災対策を含む）

振興局への報告義務を伴う重大な介護事故は、法人全体で5事業所16件であった。内容は骨折が11件、誤薬が2件、その他3件となっている。これらを含め、各事業所において事故防止委員会等を定期的に開催し、再発防止に努めた。

北海道胆振東部地震後は、各事業所においてはランタン等照明器具の整備がされたが、冬期間の災害を想定した場合の暖房の確保については電源の確保方法も含めて検討中である。

10月26日に発生した火災死亡事故に対しては、喫煙室に非常時呼び出しボタン及び消火用水を配置した。

〔2〕 法人の事業

施設種類及び事業	施設名	定員	開設年月日	施設長・管理者
障害者支援施設	北海道リハビリテーションセンター	入所支援40名 生活介護60名	昭和44年4月1日	施設長 大塚 彰
障害者支援施設	北海道リハビリテーションセンター療護部	入所支援50名 生活介護50名	昭和58年4月1日	施設長 大塚 彰
身体障害者短期入所事業	北海道リハビリテーションセンター療護部	2	昭和61年4月1日	施設長 大塚 彰
特別養護老人ホーム	北海道リハビリテーションセンター特養部	50	昭和63年4月1日	施設長 堂前文男
老人短期入所事業	北海道リハビリテーションセンター特養部	4	平成2年4月1日	施設長 堂前文男
老人デイサービス事業	リハビリデイセンター	30	平成13年4月1日	施設長 堂前文男
特別養護老人ホーム	白老町立特別養護老人ホーム寿幸園	55	平成19年3月1日	施設長 岩本秀俊
老人短期入所事業	白老町立特別養護老人ホーム寿幸園	5	平成19年3月1日	施設長 岩本秀俊
認知症対応型共同生活介護施設	グループホームいたどり	18	平成23年4月1日	管理者 後藤耕治
居宅介護支援事業	北海道リハビリテーションセンター特養部居宅介護支援事業所		平成12年4月1日	管理者 堂前文男
在宅介護支援センター事業	リハビリ支援センター		平成13年4月1日	管理者 堂前文男
共同生活介護事業所	ケアホームしおさい	12	平成24年3月21日	管理者 大塚 彰
介護老人保健施設	そよ風の里	80	平成24年4月1日	施設長 立見泰彦
診療所	北海道リハビリテーションセンター診療所		平成24年4月1日	施設長 立見泰彦
介護福祉士実務者研修事業	天寿会介護福祉士実務者研修通信科	15	平成28年6月1日	施設長 堂前文男

〔3〕 役員の状況

① 構成 (平成31年4月1日現在)

理事 定数 7名 (現員7名)  
 監事 定数 2名 (現員2名)  
 評議員 定数 8名 (現員8名)

〔4〕 平成30年度評議員会開催状況

開催年月日・出席人数	議 事	
平成30年 6月13日 <評議員> 7名 <理事> 2名 <監事> 2名	議案	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度計算書類及び財産目録の承認について</li> <li>社会福祉充実残高の算定について</li> </ul>
	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年度事業報告について</li> <li>平成30年度事業計画について</li> <li>平成30年度資金収支予算について</li> <li>特別養護老人ホーム(特養部)の施設整備計画について</li> <li>介護保険施設等実地指導及び老人福祉施設指導監査の結果について</li> </ul>
平成30年11月30日 <評議員> 7名 <理事> 2名 <監事> 2名	議案	<ul style="list-style-type: none"> <li>定款施行規則の一部改正について</li> </ul>
	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度上半期事業経過報告等について</li> <li>平成30年度一般競争入札の結果について</li> <li>平成30年度事業計画の追加について</li> <li>平成30年度資金収支第一次補正予算(案)について</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人天寿会監事監査規則の一部改正について</li> <li>・内部監査規程の制定について</li> <li>・コンプライアンス管理規程の制定について</li> </ul>
--	---

〔5〕平成30年度理事会開催状況

開催年月日・出席人数	議 事	
平成30年 5月25日 ＜理事＞ 6名 ＜監事＞ 2名	議案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度事業執行経過報告について</li> <li>・平成29年度決算報告(案)について</li> <li>・平成30年度設備整備に係る競争入札の実施について</li> <li>・諸規則等の一部改正について</li> <li>・社会福祉法人天寿会内部管理体制の基本方針制定について</li> <li>・社会福祉法人天寿会法令遵守に関する指針の制定について</li> <li>・平成30年度定時評議員会の開催について</li> </ul>
	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長・常務理事の職務執行状況報告について</li> <li>・社会福祉充実残高の算定について</li> </ul>
平成30年11月30日 ＜理事＞ 6名 ＜監事＞ 2名	議案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度事業計画の追加について</li> <li>・平成30年度一般競争入札の結果報告について</li> <li>・平成30年度資金収支第一次補正予算(案)について</li> <li>・就業規則の一部改正について</li> <li>・パート職員一部改正について</li> <li>・定款施行規則の一部改正について</li> <li>・社会福祉法人天寿会監事監査規則の一部改正について</li> <li>・内部監査規程の制定について</li> <li>・コンプライアンス管理規程の制定について</li> <li>・平成30年度臨時評議員会の開催について</li> </ul>
	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度上半期事業経過報告等について</li> <li>・理事長及び常務理事の職務執行状況の報告について</li> </ul>
平成31年 1月 7日 ＜理事＞ 7名 ＜監事＞ 2名	議案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特養部改修事業の一般競争入札結果と請負契約締結について</li> <li>・給与規程の一部改正について</li> </ul>
	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険施設等実地指導及び老人福祉施設指導監査の結果について</li> </ul>
平成31年 3月 4日 ＜理事＞ 7名 ＜監事＞ 2名	議案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度事業計画の追加(特養部大規模修繕事業)について</li> <li>・給与規程の一部改正について</li> </ul>
	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人指導監査及び障がい者支援施設実地指導の結果報告について</li> </ul>
平成31年 3月29日 ＜理事＞ 7名 ＜監事＞ 2名	議案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度資金収支第二次補正予算(案)について</li> <li>・平成31年度事業計画(案)について</li> <li>・平成31年度拠点区分資金収支予算(案)について</li> <li>・就業規則の一部改正について</li> </ul>
	報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長専決事項等の報告について</li> <li>・特養部大規模修繕工事の建築設計業務の契約日の変更について</li> <li>・理事長及び常務理事の職務執行状況の報告について</li> </ul>

## 〔6〕 監事監査の実施状況

実施年月日	出席監事	摘要
平成30年 5月21日	2名	定款及び法令等に違反する重大な事実は無く、改善指摘事項なし
平成30年 9月25日	2名	//
平成30年11月19日	2名	//
平成31年 3月25日	2名	//

## 〔7〕 法人職員の状況 (平成31年3月31日現在)

区 分	そよ風の										計	
	更生部	療護部	しおさい	特養部	いたどり	寿幸園	デイセンター	支援センター	居宅事業	里		診療所
総合施設長(施設長含)	1	1(兼)	1(兼)	1	1	1	1(兼)	1(兼)	1(兼)	2		6
統括事務長(事務長含)	1	1										2
所長											1(兼)	1
医師						1				1	2(1兼)	3
施設長代理				1								1
事務次長										1		1
薬剤師											1	1
相談員(サビ管含)	2	1	1	1		2	1	1		1		10
介護支援専門員				1	1				2	1		5
看護師(准看含)	2	4		3		3	2			16	1	31
介護員・生活支援員	24	23	9	23	14	25	7			22		147
理学療法士(柔整含)	1			1		1						3
作業療法士(員)							1			1		1
言語聴覚士										1		1
管理栄養士(栄養士)	1	1		1		1				1		5
事務員	1	1									1	3
ボイラー技師	1	1								1		3
その他(用務・夜警他)	1	1				4				1	3	10
実人数合計	35	34	11	32	16	40	12	1	2	49	8	240

## 〔8〕 地域公益活動 (社会貢献)

事業名	実施月日・回数	活動内容(成果)
1. 身体障害者福祉協会白老支部への支援		
① 支部事務局支援	通年	法人内に身障白老支部事務局設置(郵便物等の保管支援)
② 送迎バス運行支援(中型バス)	平成30年 5月20日	身障白老支部定期総会送迎バス運行(白老町内)
	平成30年10月21日	身障白老支部視察研修送迎バス運行(札幌市)
	平成31年 2月10日	身障白老支部新年会送迎バス運行(白老町内)
	平成31年 3月10日	身障白老支部視察研修送迎バス運行(厚真町)
	平成31年 3月17日	身障白老支部スポレク大会送迎バス運行(白老町内)

## 平成30年度更生部事業報告書【概要】

総括	<p>昨年度に比べ下期に入り利用者の入院等が目立つようになり退所者も続いたこと、通所利用者が介護保険制度への移行などで若干減少し、年明けにはインフルエンザの影響で通所事業を休止する事態ともなるなど、前年度と比較し減益となった。利用申込はあるものの職員の不足や受け入れ調整に時間を要することも多く入所者の迅速な確保が困難な状況である。また、利用者の事故として重大事故である骨折事故が2件発生している。利用者の高齢化や重症化といった課題を抱えているものの、リスクマネジメントを適切に行う必要がある。ハード面では低床電動ベッドを購入し転倒・転落事故などに配慮してきたが、引き続き適切にアセスメントを行いサービス提供に努めなければならない。事故対策として10月に起きた療護部利用者の火災による死亡事故により喫煙所に緊急呼出装置を設置した。感染防止に努めていたがインフルエンザ感染が利用者・介護職員に出ており、感染防止及びその拡大防止に努めていく必要がある。今年度も適切なサービス提供を目指しリスクマネジメントや職員のスキルアップのため療護部と合同での研修会や法人研修の参画、可能な限り外部研修などへの参画に努め人材育成にも取り組んできたが、次年度も入所利用者の安定確保や稼働率の向上に努め、個々の利用者のニーズに即した個別支援計画の充実を図りたい。また、引き続き、利用者の事故防止に努め安全・安心なサービスの提供、働きやすい職場環境の構築、職員の確保並びに人材育成、療護部など障がい部門の協力体制や連携をより強化したい。施設整備については、現実的で事業継続が可能となる具体的計画を検討したい。</p>												
利用者等	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">相談</td> <td>利用者確保については、入所調整に時間を要し定員割れの状態。引き続き入所相談など適切に対応し稼働率の維持・向上を目指した。利用者支援として個別支援計画に基づきサービス提供に努めてきたが、更に自立支援に向けて計画の中身の充実が必要と考えられる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">介護</td> <td>骨折事故（重大事故）が続いており、適切にアセスメントを行いリスクマネジメントに努め、ケアガイドラインを踏まえサービスの質の向上が必要である。更生部との業務協力については部分的なものとなっており、更に協力体制を整備し具体的に業務協力を推進しなければならない。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">健康管理</td> <td>インフルエンザ感染があり健康面への影響が見られている。胃瘻などの医療的ケアの必要な利用者に対しては受診などを通して健康管理に努めてきた。次年度も研修などによる感染への理解を深め、感染防止対策を講じながら利用者の健康管理に努めたい。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">訓練</td> <td>身体機能並びに生活能力の維持・向上を目指してきた。引き続き訓練グループによる連携を図りながら個別訓練計画の立案と実施をしていく。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">給食</td> <td>利用者に合った必要栄養摂取量の確保及び個別に栄養指導も行ってきた。咀嚼・嚥下のアセスメントにより個々の利用者の状態にあった食事の工夫及び適温提供に努めてきた。また、食事レク等での企画と他職種との連携も行ってきた。引き続き、次年度もこれらの取り組みを継続する必要がある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">行事・クラブ活動</td> <td>全体での年間行事計画や単独行事計画などを実施してきた。クラブ活動に対しては、相談グループが中心となり活動支援を行ってきた。次年度は特に個別外出への取り組みを充実させたい。</td> </tr> </table>	相談	利用者確保については、入所調整に時間を要し定員割れの状態。引き続き入所相談など適切に対応し稼働率の維持・向上を目指した。利用者支援として個別支援計画に基づきサービス提供に努めてきたが、更に自立支援に向けて計画の中身の充実が必要と考えられる。	介護	骨折事故（重大事故）が続いており、適切にアセスメントを行いリスクマネジメントに努め、ケアガイドラインを踏まえサービスの質の向上が必要である。更生部との業務協力については部分的なものとなっており、更に協力体制を整備し具体的に業務協力を推進しなければならない。	健康管理	インフルエンザ感染があり健康面への影響が見られている。胃瘻などの医療的ケアの必要な利用者に対しては受診などを通して健康管理に努めてきた。次年度も研修などによる感染への理解を深め、感染防止対策を講じながら利用者の健康管理に努めたい。	訓練	身体機能並びに生活能力の維持・向上を目指してきた。引き続き訓練グループによる連携を図りながら個別訓練計画の立案と実施をしていく。	給食	利用者に合った必要栄養摂取量の確保及び個別に栄養指導も行ってきた。咀嚼・嚥下のアセスメントにより個々の利用者の状態にあった食事の工夫及び適温提供に努めてきた。また、食事レク等での企画と他職種との連携も行ってきた。引き続き、次年度もこれらの取り組みを継続する必要がある。	行事・クラブ活動	全体での年間行事計画や単独行事計画などを実施してきた。クラブ活動に対しては、相談グループが中心となり活動支援を行ってきた。次年度は特に個別外出への取り組みを充実させたい。
相談	利用者確保については、入所調整に時間を要し定員割れの状態。引き続き入所相談など適切に対応し稼働率の維持・向上を目指した。利用者支援として個別支援計画に基づきサービス提供に努めてきたが、更に自立支援に向けて計画の中身の充実が必要と考えられる。												
介護	骨折事故（重大事故）が続いており、適切にアセスメントを行いリスクマネジメントに努め、ケアガイドラインを踏まえサービスの質の向上が必要である。更生部との業務協力については部分的なものとなっており、更に協力体制を整備し具体的に業務協力を推進しなければならない。												
健康管理	インフルエンザ感染があり健康面への影響が見られている。胃瘻などの医療的ケアの必要な利用者に対しては受診などを通して健康管理に努めてきた。次年度も研修などによる感染への理解を深め、感染防止対策を講じながら利用者の健康管理に努めたい。												
訓練	身体機能並びに生活能力の維持・向上を目指してきた。引き続き訓練グループによる連携を図りながら個別訓練計画の立案と実施をしていく。												
給食	利用者に合った必要栄養摂取量の確保及び個別に栄養指導も行ってきた。咀嚼・嚥下のアセスメントにより個々の利用者の状態にあった食事の工夫及び適温提供に努めてきた。また、食事レク等での企画と他職種との連携も行ってきた。引き続き、次年度もこれらの取り組みを継続する必要がある。												
行事・クラブ活動	全体での年間行事計画や単独行事計画などを実施してきた。クラブ活動に対しては、相談グループが中心となり活動支援を行ってきた。次年度は特に個別外出への取り組みを充実させたい。												
研修計画等	法人研修委員会及び療護部との合同研修委員会にて研修内容を検討し実施してきた。ケアガイドライン（全身障協）について、身障協の研修へも参加させ受講者には内部研修の場で報告を行い更生部と協力し取り組んできた。その他、外部研修は社会福祉研修所研修等の研修に参加し、情報収集や各職場への周知を図り、職員の知識・技術の向上に努めてきた。												
施設管理等	火災による死亡事故や金銭盗難事件が相次ぎ、特にハード面で対策を講じてきた。防災対策として防火避難訓練など計画通り実行できた。												

## 平成30年度療護部〔短期入所含〕事業報告書【概要】

総括	<p>昨年度に比べ下期に退所者が多かったこと、また利用者の確保が困難だったこと、更に短期入所利用が全くなかったため減益となっている。多床室や老朽化した設備といった課題を抱えており、現状では入所申込あっても受け入れの段階で、居室の調整が見つからないこともあり稼働率には繋がらない状況も見受けられた。今年度は利用者の金銭紛失が相次ぎ、10月には火災による死亡事故など利用者の安全を脅かす事件・事故が多発した。そのため、喫煙所に緊急呼出装置の設置、1階・2階の廊下には防犯カメラを設置するなどの対策を講じた。施設整備計画の推進はもちろん老朽化などへの対応は急務である。また、利用者の転倒・転落事故対策として低床電動ベッドを購入した。感染防止については洗面所やトイレなどの洗浄・消毒を実施したもののインフルエンザの発症者が年末から利用者・介護職員に出てしまい衛生管理や感染拡大への対応が求められた結果となった。今年度も適切なサービス提供を目指しリスクマネジメントや職員のスキルアップのため更生部と合同での研修会や法人研修の企画、可能な限り外部研修などへの企画に努め人材育成にも取り組んできたが、次年度も入所利用者の安定確保や稼働率の向上に努め、老朽化への対応として設備の修理・修繕、生活環境の改善、個々の利用者のニーズに即した個別支援計画の充実を図りたい。また、引き続き、利用者の事故防止に努め安全・安心なサービスの提供、働きやすい職場環境の構築、職員の確保並びに人材育成、更生部など障がい部門の協力体制や連携をより強化したい。施設整備については、現実的で事業継続が可能となる具体的計画を検討したい。</p>	
利用者	相談	利用者確保については、退所もあり何とか定員維持が出来ず定員割れの状態。引き続き入所相談など適切に対応し稼働率の維持・向上を目指した。利用者支援として個別支援計画に基づきサービス提供に努めてきたが、更に自立支援に向けて計画の中身の充実が必要と考えられる。
者	介護	転倒・転落などの事故が続いており、適切にアセスメントを行いリスクマネジメントに努め、ケアガイドラインを踏まえサービスの質の向上が必要である。更生部との業務協力については部分的なものとなっており、更に協力体制を整備し具体的に業務協力を推進しなければならない。
サ	健康管理	インフルエンザ感染があり健康面への影響が見られている。胃瘻などの医療的ケアの必要な利用者に対しては受診などを通して健康管理に努めてきた。次年度も研修などによる感染への理解を深め、感染防止対策を講じながら利用者の健康管理に努めたい。
	訓練	身体機能並びに生活能力の維持・向上を目指してきた。引き続き訓練グループによる連携を図りながら個別訓練計画の立案と実施をしていく。
ピ	給食	利用者に合った必要栄養摂取量の確保及び個別に栄養指導も行ってきた。咀嚼・嚥下のアセスメントにより個々の利用者の状態にあった食事の工夫及び適温提供に努めてきた。また、食事レク等での企画と他職種との連携も行ってきた。引き続き、次年度もこれらの取り組みを継続する必要がある。
ス	行事・クラブ活動	全体での年間行事計画や単独行事計画などを実施してきた。クラブ活動に対しては、相談グループが中心となり活動支援を行ってきた。次年度は特に個別外出への取り組みを充実させたい。
等	研修計画等	法人研修委員会及び更生との合同研修委員会にて研修内容を検討し実施してきた。ケアガイドライン（全身障協）について、身障協の研修へも参加させ受講者には内部研修の場で報告を行い更生部と協力し取り組んできた。その他、外部研修は社会福祉研修所研修等の研修に参加し、情報収集や各職場への周知を図り、職員の知識・技術の向上に努めてきた。
等	施設管理等	火災による死亡事故や金銭盗難事件が相次ぎ、特にハード面に対策を講じてきた。また、防災対策として防火避難訓練など計画通り実行してきた。

## 平成30年度しおさい事業報告書【概要】

総括	<p>介護サービス包括型として人員配置は世話人4：1を継続している。夜間支援体制についても加算Ⅲ（緊急連絡体制による支援）で同様である。今年度は入院者も殆どなく経営的には安定していた。防災対策として避難用スロープに手摺りを設置する等安全面に配慮してきた。利用者への対応としても個々のニーズにあったサービスを提供し、他事業所の地域資源の活用や利用者の思いに応えるよう努めてきた。また、ご家族や地域住民等との交流の場として今年も利用者が企画の主体とな「夏祭り」を開催することができた。次年度も「しおさい」の事業は、グループホームの本来の姿である「地域で暮らす」「利用者主体」の視点を推進すべく地域社会との関わりを重視しながら地域生活へ繋げていく。また夜間支援体制を強化する等、安心・安全な生活環境を整備するため防災・防犯への対策を勧める。また町内会活動への積極的参加や地域NPO法人の送迎サービスの利用・利用者が主体となった行事計画の作成（実行委員会体制の確立）を勧める。</p>												
利用者等	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">相談</td> <td>現在満床が維持されており利用者の確保は出来ている。但し、利用相談も殆どなく待機者もいない状態が続いているため、引き続き、関係機関などにも積極的に働きかけ広報活動を強化していく必要がある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">相談</td> <td>利用者の個別支援計画に基づき支援を継続している。引き続き利用者ニーズを踏まえながら適切にアセスメントを行い、個別支援計画の充実を図り実践していく必要がある。広報紙の発行など情報発信も課題として取り組んでいるが、家族関係の維持などのため、引き続き広報活動を継続していく。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">生活支援</td> <td>利用者の個別支援計画に基づいた支援を実践している。利用者も徐々に高齢化してきており、身体面・精神面などの支援が多様化していることから、適切にアセスメントを行い、適切な支援が出来るよう努めていく必要がある。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">健康管理</td> <td>利用者も徐々に高齢化が進んでいるため、日常的健康チェックや早期対応による健康管理の把握に努め、適時受診介助などを行ってきている。また、感染症予防としてインフルエンザワクチン接種を行った。引き続き、利用者ひとり一人の健康面での支援を継続していく。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">給食</td> <td>利用者の嗜好や栄養面に配慮した献立を行い食事の提供に努めてきた。また、世話人同士のスキルアップのため調理実習・試食会なども行ってきた。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">行事</td> <td>利用者が望む「忘年会・夏祭り」を実施した。夏祭りは利用者主体となり今年も怪異さることが出来た。その他余暇活動として誕生会・外食等を実施している。近隣地域の行事参加は利用者の主体性に任せているが、積極的な参加は見られていない。しかし、本人の意向で外出などしており、また、日中活動して通所を利用するなどしている。引き続き、利用者の望む余暇活動に対して、個々の利用者主体となるよう支援が必要である。</td> </tr> </table>	相談	現在満床が維持されており利用者の確保は出来ている。但し、利用相談も殆どなく待機者もいない状態が続いているため、引き続き、関係機関などにも積極的に働きかけ広報活動を強化していく必要がある。	相談	利用者の個別支援計画に基づき支援を継続している。引き続き利用者ニーズを踏まえながら適切にアセスメントを行い、個別支援計画の充実を図り実践していく必要がある。広報紙の発行など情報発信も課題として取り組んでいるが、家族関係の維持などのため、引き続き広報活動を継続していく。	生活支援	利用者の個別支援計画に基づいた支援を実践している。利用者も徐々に高齢化してきており、身体面・精神面などの支援が多様化していることから、適切にアセスメントを行い、適切な支援が出来るよう努めていく必要がある。	健康管理	利用者も徐々に高齢化が進んでいるため、日常的健康チェックや早期対応による健康管理の把握に努め、適時受診介助などを行ってきている。また、感染症予防としてインフルエンザワクチン接種を行った。引き続き、利用者ひとり一人の健康面での支援を継続していく。	給食	利用者の嗜好や栄養面に配慮した献立を行い食事の提供に努めてきた。また、世話人同士のスキルアップのため調理実習・試食会なども行ってきた。	行事	利用者が望む「忘年会・夏祭り」を実施した。夏祭りは利用者主体となり今年も怪異さることが出来た。その他余暇活動として誕生会・外食等を実施している。近隣地域の行事参加は利用者の主体性に任せているが、積極的な参加は見られていない。しかし、本人の意向で外出などしており、また、日中活動して通所を利用するなどしている。引き続き、利用者の望む余暇活動に対して、個々の利用者主体となるよう支援が必要である。
相談	現在満床が維持されており利用者の確保は出来ている。但し、利用相談も殆どなく待機者もいない状態が続いているため、引き続き、関係機関などにも積極的に働きかけ広報活動を強化していく必要がある。												
相談	利用者の個別支援計画に基づき支援を継続している。引き続き利用者ニーズを踏まえながら適切にアセスメントを行い、個別支援計画の充実を図り実践していく必要がある。広報紙の発行など情報発信も課題として取り組んでいるが、家族関係の維持などのため、引き続き広報活動を継続していく。												
生活支援	利用者の個別支援計画に基づいた支援を実践している。利用者も徐々に高齢化してきており、身体面・精神面などの支援が多様化していることから、適切にアセスメントを行い、適切な支援が出来るよう努めていく必要がある。												
健康管理	利用者も徐々に高齢化が進んでいるため、日常的健康チェックや早期対応による健康管理の把握に努め、適時受診介助などを行ってきている。また、感染症予防としてインフルエンザワクチン接種を行った。引き続き、利用者ひとり一人の健康面での支援を継続していく。												
給食	利用者の嗜好や栄養面に配慮した献立を行い食事の提供に努めてきた。また、世話人同士のスキルアップのため調理実習・試食会なども行ってきた。												
行事	利用者が望む「忘年会・夏祭り」を実施した。夏祭りは利用者主体となり今年も怪異さることが出来た。その他余暇活動として誕生会・外食等を実施している。近隣地域の行事参加は利用者の主体性に任せているが、積極的な参加は見られていない。しかし、本人の意向で外出などしており、また、日中活動して通所を利用するなどしている。引き続き、利用者の望む余暇活動に対して、個々の利用者主体となるよう支援が必要である。												
研修計画等	法人研修委員会及び療護部・更生部との合同研修委員会にて研修内容を検討し実施してきた。また、独自に研修計画を立て、接遇、虐待防止、感染予防などの研修を実施し、職員のスキルアップに繋げる取り組みを行ってきた。その他、外部研修として社会福祉研修所研の研修に参加し、情報収集や各職場への周知を図り、職員の知識・技術の向上に努めてきた。												
施設管理等	災害等の緊急時の対応として非常口避難用スロープに手摺りを設置し、利用者の安全面に配慮してきた。												

## 平成30年度特養部(短所入所含)事業報告書【概要】

総括	<p>平成30年度入所部門の年間入所稼働率は、95.1%とここ数年より上昇得られたが、入院者も多く増益には至らなかった。退所者8名のうち医療機関への長期入院に伴う退所が7名、老衰に伴う施設内死亡が1件であった。新規入所者7名のうち4名は長期利用からの入所、残り3名が医療機関からの入所となった。今年度も12月下旬と1月に利用者各1名のインフルエンザ(A型)発症者が出て、一時的な面会制限の実施と新規利用者受入れ延期、短期入所受入れの中止の対応を実施。職員及び一部利用者様へのタミフルの予防投薬を実施し、施設側での医療費の持ち出しが増額した。名簿上待機者は町内外含め約50名程度いるものの、入所時期の延期や医療対応の重度化等により、実質的待機者の減少傾向は依然として見受けられており、引き続き入所希望者の確保に向けての事業所全体としての課題は残っており、改善対応策の検討を要す。</p> <p>【過去3年間の入所稼働率の推移】H28年度 94.0%、H29年度 91.9%、H30年度 95.1% 短期入所においては、定期的にご利用される方が男女ともおり、年間の短期入所稼働率は91.3%と前年稼働率を下回った。町内利用者傾向は前年と変化なく利用者ご本人の重度化に加えて、介護を担うご家族の高齢化等の要因により、利用期間の長期化がみられている。平成30年度における介護報酬・診療報酬のW改定においては、入所基本単価のupがある一方で、短期入所の基本単価は減額となり、ロングショート時の報酬減額措置も継続されるため、ロングショート期間の明確な基準等、事業所としての基準・規定等の策定を保険者(白老町)及び町内の短期入所事業所を併設する事業所との協議も必要と考える。</p> <p>【過去3年間のSS稼働率の推移】H28年度 91.1%、H29年度 106.1%、H30年度 91.3%</p>	
利用者	利用状況	<p>入所稼働率は95.1%と何とか目標達成には至ったが、入院者も多く利益増には至らなかった。短期入所は、胆振東部地震や2度のインフルエンザ罹患に伴う受入れ制限により前年より稼働率が低下し減益となった</p>
者	相談	<p>短期入所を含めた入所相談があり対応した。多床室にて男女毎での空床のバラつき等もあり、やむを得ず短期利用をお断りするケースも目立ち町内事業所や老健施設等の紹介を行うこともあった。実質的入所待機者確保にむけ、引き続き町内居宅事業所や近隣の関係事業所との信頼関係の構築と綿密な情報交換、連携を要している。</p>
サ	介護	<p>前年度に道アンケート調査による「不適切ケア」の改善に向けては、認知症を有する利用者への日常的な声掛けや介護時に言葉かけ等、依然として改善課題も多くあり、引き続き継続した研修機会の確保と、改善に向けた特養部所属全職員の意識改革が必要であり、次年度以降も取り組みを継続する。職員の腰痛悪化防止対策としては、利用者個別のアセスメントに基づいた、利用者の安全・安心なケア提供体制の確立も必要であり、今後も腰痛悪化予防を図る必要がある。職場内研修の徹底や介護管理職及び中堅介護職員による新人職員への指導強化を継続する。</p>
ー	健康管理	<p>前年度に引き続き利用者のインフルエンザ発症があり、早期の服薬予防や感染拡大防止に向けた対策により、拡大化は防げたものの、引き続き感染症の拡大防止に向けた対応継続を要している。年間を通じた感染症対策の徹底と、職員が感染源にならぬよう対策継続を要する。</p>
ス	訓練	<p>訓練員1名体制により、入所利用者及び短期入所利用者からの、個別訓練への要望も歩行訓練機会の増加を含め多岐に渡るニーズがあるものの、十分に対応できていない現状がある。個別に計画された訓練計画に基づき、利用者及びご家族のニーズに基づいた訓練提供に向け、日常生活動作訓練の体系化を含め課題があり、次年度以降も取り組みの継続を要している。</p>
等	給食	<p>個別に作成された『栄養ケア計画』にも基づく食事の提供を行っているが、経口摂取困難者のPEG造設等の検討が、医療サイドを中心に決定されている傾向も依然としてあり、「可能な限り経口での摂取継続に向けた取り組み」等に関しては、ご本人及びご家族の意向に基づいた多職種協働による食へのアプローチが必要であり、今後の課題となっている。</p>
	庶務	<p>利用料徴収に関しては、事務対応処理の効率化と安心・安全な金銭管理の徹底、不正事故等の防止のため口座からの引落処理への統一に向け取り組んできた。引き続き、ミスのない正確な収支報告に向け、経理課との適宜報告と複数担当での請求業務の実施継続を要する。</p>
	行事クラブ	<p>生花クラブ参加者は6名程度と例年同数で経過している。施設利用者への余暇的活動の継続した機会提供に向け、体制の継続を要している。</p>
	研修計画等	<p>介護職員による喀痰吸引実施に向けた研修は前回履修者が半数以下となり、次年度以降での研修受講が急務となっている。中堅職員への研修と事業所内での充実した研修開催に向け、特養部内役職者や研修担当者による企画・立案と研修体系の整備を要している。</p>
	施設管理等	<p>既存の多床室(4床部屋)のプライベート空間の確保に向けた、補助金を活用した改修を実施。40床増床に向けた新棟(ユニット型)増築に向けて、特養部施設内担当者による他施設の見学等を実施しており、次年度も申請実施を要している。</p>



## 平成30年度いたどり事業報告書【概要】

総括	<p>今年度は、4月前より退去者2名おり新年度のスタートをきる。待機名簿上は11名の待機がいたが、実際に入居の声掛けを行うと、「他施設入居」「入院」「医療行為が必要な状態になる」「お断り」等で、待機者0名となっており4月と5月の2か月間は空床期間が長く稼働率の低下に繋がる。地域包括や居宅介護支援事業所等への営業を行い5月後半から申し込みが増え新たに15名の新規申し込みがある。その為、6月以降は退去後の空床期間は短くできるが、元々入居されていた方の加齢による病状悪化や進行などで入院される事が増え上半期は稼働率の向上には至らない結果となる。下半期に関しても入院者の継続が確認されたか空床期間を短期間にできたので目標稼働率の95%を維持できる。今後に関しては、入居者18名中14名は85歳以上の高齢となり、加齢に伴う体調変化などが増える可能性が考えられるので、健康管理し体調変化に早期気付け入院に繋がらない支援を行う事が課題となる。又、現待機者も今後他施設の入居される事は考えられるので定期的に待機者の状況確認し、引き続き利用者確保を行い退去時のスムーズな新入居への受け入れが行える様にする必要がある。</p> <p>支援に関しては、ご本人の状態はもちろん、ご本人・ご家族の意向をアセスメントしその内容を組み込んだケアプランを作成。そのケアプランに基づく支援を行うように心掛けた。グループウェアを使用し、委員会・行事・防災訓練等の検討や取り組み後の振り返りを行う。振り返りを行う事で「気付き」に繋がりの新たな支援にむすびつける様にしている。朝のミーティングで1日の目標をたて、目標に対する支援を遂行し振り返りの結果報告をしている。</p> <p>職員に関しては、個々のスキルアップに繋がる資格取得に取り組みるようにサポートしたり、研修参加をしてもらう。</p> <p>域との関わりについては、町内会の協力を受け情報誌の回覧をして頂き、事業所の取り組みなどを確認して頂いている。又、地域からの寄贈や差し入れ等をして頂いたり、町内からの要望や意見を頂くなど地域と事業所の相互理解を継続し努める事ができた。運営推進会議では、現メンバーである、白老町職員や近隣の事業所・地域住民以外にも家族の参加も受けられるようになり、今後更に運営に関しての様々なご意見を頂ける機会を設ける事ができる様になる。又、近隣の同事業所運営推進会議に参加する事でも、新たな取り組みに繋げられるような意見を確認することができ、その利用者が遊びに来られて交流を図っている。地域の関りを継続しつつより一層関わりを増やせられるように取り組む必要がある。</p>	
利用者サピス等	利用状況	<p>平成30年度の利用者の平均利用者数は17.63人と、前年度と比較し0.07人の減少となる。稼働率に関しては上半期の新入居確保の困難時に合わせて入院者もいた為、稼働率の大幅な低下に繋がってしまった。下半期で少し立て直すも入院者が継続し見られたので年間稼働率94%と前年度より1.4%低下される。要介護度に関しても重度化した介護度の利用者は入院や退去で少なくなり、代わりに新入居として入居された要介護2・要介護3の入居者が増える。</p>
	健康管理	<p>認知症以外にも高齢に伴い複数の疾病を抱えている利用者のニーズに応えるため、週2回の非常勤専従看護職員による週2回の健康管理と24時間オンコール体制をとり緊急時の対応をとってきた。定期通院などの受診に関しては協力病院である川比「リテーナ」診療所以外にも、近隣の医療機関との連携を密にしてきた。又、入居前の在宅時に通院していた受診先を継続し通院できるように入居者と家族の意向に応じ対応し、その病院との連携も図る。感染症については予防接種の実施と手洗い・うがいの励行をしてきた。特に、グループホームでは利用者と一緒に調理するので前後の手洗い・消毒はしっかり行い安全な食事提供をしてきた。その為、ノロウイルスなどの感染症の予防をすることができた。ただ、昨年同様にインフルエンザ罹患者が発生した。職員1名と利用者2名と感染拡大を防ぐことはできたが、面会規制など約1ヶ月要しご家族にご迷惑をかけてしまった。看取りに関しては家族の意向で看取りにむすびつける事ができなかったが、訪問診療医師との連携は継続している。</p>
	給食	<p>入居者の意向や季節の物を取り入れながら献立を作成。地域や家族からの差し入れを受けながら献立に組み込んだりし、入居者の嗜好に合わせた内容の食事提供ができた。また、個々の嗜好やその日の体調に合わせてながら献立以外の代替え食を柔軟に作り、食事摂取量の向上に取り組んできた。町内外での外食機会を設ける事も好評を頂けた。</p>
	行事	<p>事業所内の行事は、個々の意向に添った内容の物を組み込んだ「秋の小旅行」に繋がられた。また、家族参加も組み込んだバーベキューと望年会も行い楽しめられる内容となった。今年度行った「餅つき」では例年の町内やボランティアの協力以外にも、町内の子どもも参加し、より一層盛り上がる内容となる。各ユニット毎のレク行事や誕生会も趣向をこらした内容であり、全体での園芸も継続し行え好評を受けた。</p>
	事務	<p>少数スタッフでの効率の良い物品管理、請求事務を行うため、職員役割分担を明確にし、法人事務担当者との連携により行ってきた。あわせて、少数故のトラブルを回避するため、それぞれの役割を相互に実施できるよう努めた。</p>
	施設整備	<p>開設から使用してきた乾燥機・洗濯機などの物品が経年劣化で使用困難になり購入することになる。現在使用している他の物品（冷蔵庫や洗濯機など）も8年近く使用している物が殆どなので、今後経年劣化で故障・使用困難になる事が考えられる。他にも、想定外だったボイラー修理やいたどり車両冬タイヤの購入もあり設備に関しての出費がかさんでしまった。</p>
	研修	<p>グループホーム協会主催の外部研修や白老町主催の外部研修に参加を行う。また、法人内の研修会や事業所内の研修委員会が企画する研修会に参加することで、認知症以外の部分を学び更なる職員のスキルアップに繋がる様に努めた。</p>
	その他	<p>今年度、2名の職員が介護福祉士国家試験に合格される。</p>

## 平成30年度寿幸園（短期舎）事業報告

事業報告	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成30年度は退居者が19名（長期入院7名・死亡12名）であり、入院者も昨年度を上回る人数となり、年間を通して退居者の補充に苦慮した。退居者や入院者の居室をショートステイに活用する事により、年間を通過した稼働率は昨年度より微増した。※入居稼働率～91.0%・短期入所稼働率～103.6% 全体稼働率～93.8%</li> <li>2. 事故は107件発生し昨年度よりは減少。事故内容としては転倒・転落36件、外傷 22件、指示未実施13件であったが、指示未実施は薬の飲ませわすれが多くを占めた。骨折事故3件、喉詰まりによる救急搬送・入院1件、誤薬1件の5件については重大事故として胆振総合振興局に報告。骨折事故2件については「しせつの保険」を活用している。</li> <li>3. 胆振東部地震に対応は、停電時発電機の設置及び約20時間で停電復旧により、入居者への生活には大きな支障は来さなかった。震災後はポータブル石油ストーブ購入や各部署に懐中電灯を設置する等、非常災害への対応を図った。</li> <li>4. 11月22日に胆振総合振興局による実地指導があり、運営基準違反等の指摘はなかったが、文書指導にて身体拘束時の記録内容と事故対応マニュアルの不備の指摘あり、それぞれ整備の上で改善報告書を提出し周知を図った。</li> </ol>										
利用者サービス等	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">入居者状況</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成30年度末時点の平均介護度3.3、平均年齢85.6才であった。95才以上の入居者が18名おり、うち1名は100才以上である。</li> <li>2. 平成30年度の新入居者20名うち16名が在宅より入居であり、うち12名が緊急ショートステイを経て入居となっている。又、4名が要介護1・2の特例入所該当者であった。</li> <li>3. 苦情が3件（入居2件・ショートステイ1件）。いずれも都度会議にて対応策を検討し周知を図っている。</li> <li>4. 介護職員の退職者複数おり、2月には病欠者が複数出たことから、2月・3月は介護職員が少ない中での支援となったが、シフト調整や延長勤務等で入居者への影響を最小限度に留める事が出来た。</li> <li>5. 介助による経口摂取困難者が微増しており、栄養や水分補給の点滴を必要時に実施している。</li> </ol> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">健康管理</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年間を通じてインフルエンザやノロウィルス等の感染症の発生は見られなかった。</li> <li>2. 白老町立病院を含め、苫小牧方面の整形外科や認知症治療の精神科受診の回数が増えている。看護師の夜間オンコールから、平均月3回程度はオンコールによる出勤対応となっている。</li> </ol> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">機能訓練</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 午前中の全体体操を夕方にも実施するようにし、入居者の生活に変化をもたらした。</li> </ol> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">給食</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 嚥下困難者を対象に、ミキサー粥をゼリー状に出来る補助材料を導入し、より安全に経口摂取することへの効果が得られた。</li> </ol> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">行事</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 夏祭りを後援会と連携し開催した。開始時間を若干早めることで円滑に開催することが出来た。</li> <li>2. レク委員主催による全体行事の他に、ブロック単位で季節ごとの行事を企画実施した。</li> </ol> </td> </tr> </table>	入居者状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成30年度末時点の平均介護度3.3、平均年齢85.6才であった。95才以上の入居者が18名おり、うち1名は100才以上である。</li> <li>2. 平成30年度の新入居者20名うち16名が在宅より入居であり、うち12名が緊急ショートステイを経て入居となっている。又、4名が要介護1・2の特例入所該当者であった。</li> <li>3. 苦情が3件（入居2件・ショートステイ1件）。いずれも都度会議にて対応策を検討し周知を図っている。</li> <li>4. 介護職員の退職者複数おり、2月には病欠者が複数出たことから、2月・3月は介護職員が少ない中での支援となったが、シフト調整や延長勤務等で入居者への影響を最小限度に留める事が出来た。</li> <li>5. 介助による経口摂取困難者が微増しており、栄養や水分補給の点滴を必要時に実施している。</li> </ol>	健康管理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年間を通じてインフルエンザやノロウィルス等の感染症の発生は見られなかった。</li> <li>2. 白老町立病院を含め、苫小牧方面の整形外科や認知症治療の精神科受診の回数が増えている。看護師の夜間オンコールから、平均月3回程度はオンコールによる出勤対応となっている。</li> </ol>	機能訓練	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 午前中の全体体操を夕方にも実施するようにし、入居者の生活に変化をもたらした。</li> </ol>	給食	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 嚥下困難者を対象に、ミキサー粥をゼリー状に出来る補助材料を導入し、より安全に経口摂取することへの効果が得られた。</li> </ol>	行事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 夏祭りを後援会と連携し開催した。開始時間を若干早めることで円滑に開催することが出来た。</li> <li>2. レク委員主催による全体行事の他に、ブロック単位で季節ごとの行事を企画実施した。</li> </ol>
入居者状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成30年度末時点の平均介護度3.3、平均年齢85.6才であった。95才以上の入居者が18名おり、うち1名は100才以上である。</li> <li>2. 平成30年度の新入居者20名うち16名が在宅より入居であり、うち12名が緊急ショートステイを経て入居となっている。又、4名が要介護1・2の特例入所該当者であった。</li> <li>3. 苦情が3件（入居2件・ショートステイ1件）。いずれも都度会議にて対応策を検討し周知を図っている。</li> <li>4. 介護職員の退職者複数おり、2月には病欠者が複数出たことから、2月・3月は介護職員が少ない中での支援となったが、シフト調整や延長勤務等で入居者への影響を最小限度に留める事が出来た。</li> <li>5. 介助による経口摂取困難者が微増しており、栄養や水分補給の点滴を必要時に実施している。</li> </ol>										
健康管理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年間を通じてインフルエンザやノロウィルス等の感染症の発生は見られなかった。</li> <li>2. 白老町立病院を含め、苫小牧方面の整形外科や認知症治療の精神科受診の回数が増えている。看護師の夜間オンコールから、平均月3回程度はオンコールによる出勤対応となっている。</li> </ol>										
機能訓練	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 午前中の全体体操を夕方にも実施するようにし、入居者の生活に変化をもたらした。</li> </ol>										
給食	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 嚥下困難者を対象に、ミキサー粥をゼリー状に出来る補助材料を導入し、より安全に経口摂取することへの効果が得られた。</li> </ol>										
行事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 夏祭りを後援会と連携し開催した。開始時間を若干早めることで円滑に開催することが出来た。</li> <li>2. レク委員主催による全体行事の他に、ブロック単位で季節ごとの行事を企画実施した。</li> </ol>										
研修	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寿幸園内研修委員会による独自研修の他に、北海道社会福祉協議会等の関連団体主催研修会に参加。その他、天寿会研修委員会主催研修会に参加した。</li> </ol>										
施設管理	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建物が10年以上経過し、設備・備品の経年劣化による不具合が増加しており、更なる丁寧な設備・備品の扱いが必要となった。</li> </ol>										
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 広報誌「やまぼうし」を年4回発行し関係者に配布した。</li> </ol>										

## 平成30年度老人デイ・居宅・支援センター事業報告書【概要】

<p>総括</p>	<p>老人デイは、上半期は利用者の死亡等により減少していたが、下半期は利用率が向上し年間を通して前年度より登録者数・利用率共に増加した。要支援者は26.4%、要介護者は74.6%で、約3割が総合事業利用者となっている。職員配置については、退職者もなく、正職員・準職員・パート職員の協力により少人数体制であるが、様々な創意工夫により利用者からの一定程度の評価も受け1年間乗り越えることが出来た。サービス提供プログラムの見直しが必要であるとの認識はあるが、大きな見直しには至らず、余暇指導・年間行事等の見直しを図り、利用者参加型のプログラムを推進してきた。</p> <p>居宅介護支援は、ケアマネが定着せず、利用件数も減少が続いたため、デイサービスからの大幅な繰入による運営となった。在宅介護支援センター等の委託運営事業は予定どおりの実施となった。</p>										
<p>利用者サービス等</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="274 645 427 813"> <p>利用状況</p> </td> <td data-bbox="427 645 1412 813"> <p>老人デイの一日あたり平均利用者は28.8名であり、その内要支援対象者は26.4%となっている。登録者の利用率は79.8%となっている。ケアプランの作成数は、述べ552件で月平均46件となっている。予防介護プランは月平均4.5件となっている。在宅介護支援センターの75歳時訪問件数は、年間48件となっている。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="274 813 427 981"> <p>健康管理</p> </td> <td data-bbox="427 813 1412 981"> <p>老人デイ利用者の殆どが内服中であり、内服薬の確認、血圧等バイタルチェックを実施し、健康管理に努めてきた。歩行の不安定な利用者も多く、転倒防止等の配慮を行ってきた。感染症については、各種の予防対策の実施によりノロウイルスやインフルエンザの集団発生はなかった。朝食を取らずに来所する利用者には持参の朝食摂取等の支援も実施した。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="274 981 427 1149"> <p>訓練</p> </td> <td data-bbox="427 981 1412 1149"> <p>老人デイでは要支援・要介護共に、個別の機能訓練を実施してきた。介護予防として運動器機能向上を選択し、個別訓練を強化してきた。機能訓練ニーズは高く、訓練士を中心に全スタッフの協力で適切な機能訓練を実施し、概ね利用者のニーズに responding している。総合事業については、従来の訓練プログラムを実施してきた。全利用者の機能評価も実施している。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="274 1149 427 1317"> <p>給食</p> </td> <td data-bbox="427 1149 1412 1317"> <p>管理栄養士が、直接利用者の食事に対する希望等を聞き取りながらニーズに responding してきた。利用者の中には、サービス受給中の食事が大きなウェートを占めているものもあり、健康管理の上からも、食の大切さを自覚しながら給食提供を実施してきた。食事を伴う行事やおやつレク等への支援も実施した。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="274 1317 427 1429"> <p>行事・クラブ活動</p> </td> <td data-bbox="427 1317 1412 1429"> <p>法人全体の行事として夏祭り、秋の祭典、カラオケ大会等への参加を行った。単独行事として誕生会、クリスマス会、運動会等を実施してきた。利用者のニーズを取り入れながら、企画してきたが、今後も、利用者の望むレクを実視していく必要がある。</p> </td> </tr> </table>	<p>利用状況</p>	<p>老人デイの一日あたり平均利用者は28.8名であり、その内要支援対象者は26.4%となっている。登録者の利用率は79.8%となっている。ケアプランの作成数は、述べ552件で月平均46件となっている。予防介護プランは月平均4.5件となっている。在宅介護支援センターの75歳時訪問件数は、年間48件となっている。</p>	<p>健康管理</p>	<p>老人デイ利用者の殆どが内服中であり、内服薬の確認、血圧等バイタルチェックを実施し、健康管理に努めてきた。歩行の不安定な利用者も多く、転倒防止等の配慮を行ってきた。感染症については、各種の予防対策の実施によりノロウイルスやインフルエンザの集団発生はなかった。朝食を取らずに来所する利用者には持参の朝食摂取等の支援も実施した。</p>	<p>訓練</p>	<p>老人デイでは要支援・要介護共に、個別の機能訓練を実施してきた。介護予防として運動器機能向上を選択し、個別訓練を強化してきた。機能訓練ニーズは高く、訓練士を中心に全スタッフの協力で適切な機能訓練を実施し、概ね利用者のニーズに responding している。総合事業については、従来の訓練プログラムを実施してきた。全利用者の機能評価も実施している。</p>	<p>給食</p>	<p>管理栄養士が、直接利用者の食事に対する希望等を聞き取りながらニーズに responding してきた。利用者の中には、サービス受給中の食事が大きなウェートを占めているものもあり、健康管理の上からも、食の大切さを自覚しながら給食提供を実施してきた。食事を伴う行事やおやつレク等への支援も実施した。</p>	<p>行事・クラブ活動</p>	<p>法人全体の行事として夏祭り、秋の祭典、カラオケ大会等への参加を行った。単独行事として誕生会、クリスマス会、運動会等を実施してきた。利用者のニーズを取り入れながら、企画してきたが、今後も、利用者の望むレクを実視していく必要がある。</p>
<p>利用状況</p>	<p>老人デイの一日あたり平均利用者は28.8名であり、その内要支援対象者は26.4%となっている。登録者の利用率は79.8%となっている。ケアプランの作成数は、述べ552件で月平均46件となっている。予防介護プランは月平均4.5件となっている。在宅介護支援センターの75歳時訪問件数は、年間48件となっている。</p>										
<p>健康管理</p>	<p>老人デイ利用者の殆どが内服中であり、内服薬の確認、血圧等バイタルチェックを実施し、健康管理に努めてきた。歩行の不安定な利用者も多く、転倒防止等の配慮を行ってきた。感染症については、各種の予防対策の実施によりノロウイルスやインフルエンザの集団発生はなかった。朝食を取らずに来所する利用者には持参の朝食摂取等の支援も実施した。</p>										
<p>訓練</p>	<p>老人デイでは要支援・要介護共に、個別の機能訓練を実施してきた。介護予防として運動器機能向上を選択し、個別訓練を強化してきた。機能訓練ニーズは高く、訓練士を中心に全スタッフの協力で適切な機能訓練を実施し、概ね利用者のニーズに responding している。総合事業については、従来の訓練プログラムを実施してきた。全利用者の機能評価も実施している。</p>										
<p>給食</p>	<p>管理栄養士が、直接利用者の食事に対する希望等を聞き取りながらニーズに responding してきた。利用者の中には、サービス受給中の食事が大きなウェートを占めているものもあり、健康管理の上からも、食の大切さを自覚しながら給食提供を実施してきた。食事を伴う行事やおやつレク等への支援も実施した。</p>										
<p>行事・クラブ活動</p>	<p>法人全体の行事として夏祭り、秋の祭典、カラオケ大会等への参加を行った。単独行事として誕生会、クリスマス会、運動会等を実施してきた。利用者のニーズを取り入れながら、企画してきたが、今後も、利用者の望むレクを実視していく必要がある。</p>										
<p>事務管理</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="274 1429 427 1529"> <p>事務</p> </td> <td data-bbox="427 1429 1412 1529"> <p>少数スタッフで効率の良い物品管理、請求事務等を行うため、担当部署に物品管理者を配置し効率化を図っている。介護保険請求については、特養部との共同作業を行ってきた。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="274 1529 427 1608"> <p>施設整備</p> </td> <td data-bbox="427 1529 1412 1608"> <p>建物・備品の保守管理を業者と連携して実施してきた。特浴備品・湯沸かし器等の修理を実施した。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="274 1608 427 1731"> <p>研修</p> </td> <td data-bbox="427 1608 1412 1731"> <p>事業所内研修は、デイ職員として必要な基本的知識・技術に関する研修・マナー研修等を実施し、法人として実施している内部研修等にも参加した。ケアマネについては、ケアマネ連協研修会を中心に参加した。</p> </td> </tr> </table>	<p>事務</p>	<p>少数スタッフで効率の良い物品管理、請求事務等を行うため、担当部署に物品管理者を配置し効率化を図っている。介護保険請求については、特養部との共同作業を行ってきた。</p>	<p>施設整備</p>	<p>建物・備品の保守管理を業者と連携して実施してきた。特浴備品・湯沸かし器等の修理を実施した。</p>	<p>研修</p>	<p>事業所内研修は、デイ職員として必要な基本的知識・技術に関する研修・マナー研修等を実施し、法人として実施している内部研修等にも参加した。ケアマネについては、ケアマネ連協研修会を中心に参加した。</p>				
<p>事務</p>	<p>少数スタッフで効率の良い物品管理、請求事務等を行うため、担当部署に物品管理者を配置し効率化を図っている。介護保険請求については、特養部との共同作業を行ってきた。</p>										
<p>施設整備</p>	<p>建物・備品の保守管理を業者と連携して実施してきた。特浴備品・湯沸かし器等の修理を実施した。</p>										
<p>研修</p>	<p>事業所内研修は、デイ職員として必要な基本的知識・技術に関する研修・マナー研修等を実施し、法人として実施している内部研修等にも参加した。ケアマネについては、ケアマネ連協研修会を中心に参加した。</p>										
<p>その他</p>	<p>通所介護事業所が町内に4箇所あり、利用者の確保が困難となっているが、ケアマネの協力や他の事業所の協力で利用者を確保してきた。事業所の特徴である温泉利用や機能訓練に対する評価もあり昨年度より利用者が増加した。登別市内の利用者の確保は事業の安定に寄与しており、今後も積極的な利用者確保への働きかけを行っていく必要がある。更に利用者サービスの向上のためにも、サービス内容の検討を常に行い、利用者ニーズに responding していく必要がある。総合事業についても、独自のプログラムを検討していく必要がある。又、法人が受託している脳トレ・サロンへの職員派遣を行った。居宅・在介については、職員の定着が進まず課題を残した。</p>										

## 平成30年度そよ風の里事業報告書【概要】

総括	<p>利用率は6月から8月の3ヶ月、10月11月と死亡者と入院者が相次ぎ、利用率は92～93%台で経緯した。12月から3月までは利用率99%台を維持したことから通年ではほぼ96%となった。他医療機関への入院による退居者数は20名で前年度から3割強減少した。施設内で看取った死亡退居ケースは9名おり、ターミナルケア加算対象となったのはうち3名であった。</p> <p>他医療機関受診者数は前年度並みで、高額薬剤の処方もあったが金額は10万円程度減少した。</p> <p>地域貢献では、町からの委託事業である「脳の健康教室」（竹浦）、介護予防サロン「すこやかサロン」、認知症カフェ「ときいろ」の運営に、虎杖小学校にて感染防止教室開催に、職員を派遣した。</p> <p>12月には胆振総合振興局（苫小牧保健所）の実地指導が行われたが、改善を要する指導事項はなかった。</p>	
利用者等	利用状況	<p>平均利用者数は76.7名。利用率は95.9%。新・再入居者35名、退居者36名と昨年度より2割程度入退居が減った。平均介護度は3.0、平均年齢は84.1才、最高齢者100才、最若齢者63才。経管栄養者の平均人数は14.3名、入居者数に対して18.8%であった（いずれも年度末日状況）</p>
利用者等	相談	<p>入居利用相談は、年間40件を超したが、実際に入居したのは半数に満たなかった。年度前半は待機者がおらず、後半は満床時に入居相談が続く等、状況がマッチングしなかった。利用料金の未払い・停滞が2ケースあり支払依頼を継続している。</p> <p>近隣関係機関への情報提供について、新たな取り組みには至らなかった。</p>
利用者等	医療健康管理	<p>施設内の医療提供は医師常駐施設の利点を生かし24時間365日体制で提供された。施設外の近隣医療機関への受診は、歯科以外で98件、歯科が76件と総体的には昨年度と大きく変わりはなかった。また、冬期間のインフルエンザ感染流行に対してワクチンの予防接種を無料で利用者及び職員に行い、30年度については利用者の発病なし、職員の発病1名に止まった。</p>
利用者等	看護介護	<p>ケアプランに基づく個別ケアを推進。ケース会議においては、利用者本人及び家族が同席している。重大事故となる骨折が1件、誤薬が1件あり、誤薬については1年間の再発防止プランでの検証を実施している。身体拘束は対象者が1名おり、適正な対応と廃止に向けて取り組んでいる。ターミナルケア対象者として3名の看取りを行った。</p>
利用者等	訓練	<p>作業療法士（OT）と言語聴覚士（ST）が、身体機能の低下を防ぐ為、個別機能訓練計画を作成し訓練を実施した。新入居者に対しては週3回以上を3ヶ月、その後は週2回以上の訓練を実施した。また、OTは地域介護予防事業に派遣・協力した。</p>
利用者等	給食	<p>利用者個々の嗜好をミールラウンドのなかで把握しつつ、利用者の栄養状態に合わせた栄養マネジメントを実施した。食事レク委員会を中心として流しソーメンやデザートバイキング、寿司レクなどを企画・実施した。</p>
利用者等	行事レク	<p>他施設と合同の法人行事に参加の他、各ユニットで独自の行事・レクを企画・実施した。また、重度要介護利用者の自宅への外出支援は4ケースあった。</p>
利用者等	研修計画等	<p>法人において年間10回の定期研修・新任職員研修、施設内にて中堅介護職員研修を行い、14研修に延94名が参加した。</p>
利用者等	施設管理等	<p>施設内医療費は5年連続前年を下回り、前年度比16%の削減ができた。</p> <p>施設内物品では、特浴ストレッチャー2台の昇降システムが故障し修理を要した。また開設時に整備したユニットの炊飯器・食洗機などは修理・買い替えを要した。看護・介護職員については、最終的には必要数を確保できたものの、補充完了までの間に指定休消化が滞ることとなった。</p>
利用者等	地域貢献	<p>町からの受託事業として「脳の健康教室（竹浦教室）」を5月～9月の毎週水曜日、虎杖浜生活館にて「すこやかサロン」を毎月1回、「認知症カフェときいろ」を毎月1回実施した。</p> <p>12月には虎杖浜小学校にて感染防止教室を行った。</p>

## 平成30年度診療所部事業概要

運 営 方 針	<p>平成24年度より無床診療所として事業開始後6年が経過し、7年目に入った。</p> <p>平成30年度は6年に一度の介護報酬と同時に診療報酬改定が行われた。診療報酬本体は医科が引き上げられ、薬価制度は抜本改革、診療材料価格は適正価格の見直しが行われ引き下げられた。診療報酬本体は+0.05%であり、内訳は医科ベースで+0.63%、薬価ベースで▲1.65%、診療材料価格ベースで▲0.09%となっている。改定により、認知症検査長谷川式（1件800円）が算定可能となった。当診療所への影響については、薬価と診療材料価格が下がっている。但し、診療報酬は減算項目が殆どなく影響はなかった。人員配置について、医師1名が3月18日より病気療養に入り、他の医師2名により外来診療を補完してきた。このような中、法人の理念である“天寿会は、利用者と共に歩み、笑顔と安心を提供します。”を掲げており、地域住民や利用者の健康管理に限られた医療機器の中、安心安全な医療の提供をしてきた。</p> <p>基本方針として、以下の項目を掲げ事業を実施してきた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療法、医師法等を順守し、違反のないよう医療を提供する。</li> <li>2. 地域住民や職員への医療を提供し、自立した生活を営むことが出来るように支援する。</li> <li>3. 施設入所利用者への健康管理を行う。</li> </ol>	
医 療 サ ー ビ ス 等	地域住民	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 契約による「特定健診」、「後期高齢者健康診査」、「特定健診情報提供」等の診療を提供する。</li> <li>2. 在宅療養指導を行う。</li> <li>3. 協力医療機関と連携し緊急時支援体制の確保を図る。</li> <li>4. 予防ワクチンの提供を行う—肺炎球菌・インフルエンザ</li> <li>5. 白老町学校健診へ協力する—虎杖浜・竹浦小学校</li> <li>6. 平成30年度白老町中学生のピロリ菌検査・除菌支援事業へ協力する。但し、今年度の実績は0であった。</li> </ol>
	施設利用者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 予防接種を提供する。</li> <li>2. 協力医療機関と連携し緊急時支援体制の確保を図る。</li> <li>3. 健康診断を提供する。</li> <li>4. 診療を提供する。</li> </ol>
	職員	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康診断を提供する。</li> <li>2. 診療を提供する。</li> <li>3. インフルエンザ予防接種を提供する。</li> <li>4. 協力医療機関と連携し緊急時支援体制の確保を図る。</li> </ol>
	検査・治療器	<p>必要最小限の機器で対応し、設置機器以外については委託業者へ依頼する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心電図装置</li> <li>2. 尿検査器</li> <li>3. 生化学分析装置</li> <li>4. レントゲン撮影装置（回診用X線装置を含む）</li> <li>5. 超音波画像診断装置</li> <li>6. 鍼治療器</li> </ol>
	人員配置	<p>医療法、医師法を順守した配置とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師3名</li> <li>2. 薬剤師1名</li> <li>3. 看護師1名</li> <li>4. レントゲン技師（パート）1名</li> <li>5. 薬局事務員1名</li> <li>6. 臨床検査技師（パート）1名</li> <li>7. 医療事務員2名（1名パート）</li> </ol>
人材育成 (職員確保)	<p>医療事務員1名をパート職員として採用した。医師1名が病気療養に入り、この間は他の医師2名により外来診療を補完してきた。</p>	
施設管理等	<p>1F廊下壁に雨水漏れがあり、上階の窓廻りからの侵入に対処する</p>	
そ の 他	<p>今年度、回診用X線装置が更新されたことにより、レントゲン撮影時に生じていた不具合（前進走行モーターが弱い、後退走行モーターが作動しないため手動で動かす等）が解消され、有効に利用されている。</p>	

